



藤棚
53号

世田谷区深沢 4-10-1
東京学芸大附属世田谷小学校内
青山附属同窓会
<https://aoyama-dosokai.jp>
青山附属同窓会 検索

発行人 森 昭彦
編集人 斉藤研一

名簿発行のお知らせ

早いもので、来年(二〇二二年)で前回の名簿発行から五年になります。

新たに五〇〇名以上の卒業生を迎え、また、多くの卒業生が住所や勤務先などを変更されています。

同窓会では、来年の名簿発行に向けて今号の会報に調査票を同封し、掲載内容や掲載の可否についての確認をさせていただきます。

変更点があれば赤字で修正し、変更がなくても「変更なし」の欄に印を付けていただき、同封の返信用封筒にてご返送ください。

名簿の配布先は、卒業生・現旧教職員と小学校などの関係者に限られておりますが、

掲載を希望されない項目は不掲載にすることができ、また同窓会では、個人情報について、第三者への漏えいなどの事故がないよう、厳重な注意のもとで取り扱っています。

名簿の発行を中止する同窓会も増えるなか、本同窓会では、ご健在の約一万人の卒業生のうち七千人を超える方の住所が判明しており、その多くの方が連絡先を名簿に掲載されています。同窓会名簿は、

クラスの開催など、卒業生の皆様が連絡を取る手段として利用いただいております。今後もそのお役に立てる限り、改善を続けながら発行を続けてまいります。

附属小学校一四〇周年記念祭や、旧下馬校舎の閉鎖に伴うイベントには、多くの卒業生が参加されました。これも皆様のご協力で名簿が維持されているからこそ、できるところです。

名簿の発行に、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。名簿は不要という方も、同窓会として会員のご住所を把握する必要をご理解の上、調査票記入には是非、ご協力下さい。

今回の調査票の記載について



ての詳細や、前回からの変更点などについては、別紙または調査票の裏面をご参照ください。



附属小学校の近況

副校長 越後 佳宏

2021

同窓会の皆様、いつも附属小学校をあたたく見まもりご支援をいただき、ありがとうございます。

開校から百四十六年目の春を迎えました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けた年でした。四～五月は全国的に休校措置となり、六月から授業再開後も、学級内を四分割にしての分散登校、学級内二分割分散登校を経て、一学期末まで時差をつけての全校登校を余儀なくされました。二学期は通常登校となりましたが、予定していた行事の多くは中止となりました。三学期は、第二波が押し寄せ、都内新規感染者数が二千人を超える状況となり、またもや学級内二分割分散登校の措置をとりました。二月の下旬から時差をつけての全校登校とし、三月十九日

(金)に、各学年との卒業の会を行い、翌二十日(土)に卒業生と保護者、教職員のみで卒業式を行いました。

施設・設備面では、上下水道の配管を更新する工事、別館のトイレ工事、そしてかねてからの念願であった上校庭を人工芝に改修する工事が行われ、子どもたちが過ごしやすい環境整備を進めることができました。

文部科学省から指定を受けている「研究開発学校」では、昨年度は新型コロナウイルス感染症のため休校期間が長期にわたったため、「名目指定」という扱いになり、指定期間が一年延長されました。そのような中でも、ラボ活動を試し、本年度から本格実施をしております。「学びを自分でデザインする子」の育成に向けて一歩一歩前進を進めております。

【先生の異動】

☆お送りした先生

▽大櫃 重剛先生

平成二十年度に本校に赴任され、途中平成二十五年度～平成二十七年度の三年間東京都の小学校で勤務された後、また本校に戻られて、通算十年間本校に在職されました。いつもにこやかにお話をされ、「ピッター」の愛称で親しまれていました。図画工作をご専門とされ、卒業の会や入学の会の飾りつけは毎年趣向を凝らした作品を提案され、子どもたちとともに素敵なお品を会を支えてくださっていました。

▽早川 光洋先生

令和元年度に本校に赴任され、二年間在職されました。この間にお子さんがお生まれになり、お父様となられました。体育をご専門とされ、コロナ禍で運動会は中止になりましたが、子どもたちと計画し、学級内での運動会を開催しました。また、ラボ活動では「しないスポーツ」研究室を開き、スポーツをするだけでなく、見たり、支えたり、知ったりして、スポーツをいろいろな側面からみて、楽しみ方の視野を広げてくださいました。

ワフルに活動していたのとを伺っておりました。期待通り、四月の休校期間には埼玉県から片道三時間かけて自転車ですべてまで通勤されたのには驚きました。

その力を余すところなく、元気な三年生の学校生活に注いでくださり、昨年度から試行している三年生の学年ラボ活動も積極的に取り組んでくださいました。

今後の東京都での活躍をお祈りしております。

図画工作の授業では、子どもたちが本来もっている「より自己を表現すること」をめざして学ぼうとする力」を引き出すための環境を整え、「学びを自分でデザインする子」の育成に向けて意欲的に取り組まれました。

今後は大学で未来の先生を育てられるとのこと。ご活躍をお祈りしております。

▽福島 奈緒先生

令和二年度一年間本校に在職されました。

お話をされる時の物静かな口調からは想像できないのですが、学生時代にはラクロスに打ち込み、早朝からバ



今年度の同窓会

幹事長 森 昭彦

昨年来の世界的パンデミックの中、同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。心ならずも病に倒れた方にはお見舞いを、お亡くなりになられた方には心よりご冥福をお祈りいたします。また、日々ウイルスと戦ってこられた多くの会員の方々には心よりの感謝と敬意を表します。

この一年、常任幹事会はずべてオンラインにより行われてきました。各学年の幹事にお集まりいただく幹事会は昨年引き続き中止といたしました。幹事会承認事項である決算報告は、同窓会規約により常任幹事会の議を経て会計監事の承認の上、会報「藤棚」にて報告いたします。

また、今秋に開催を予定していた同窓会懇親会も中止としました。来年度、想を新たに開催できればと思っております。

本年六月二十日現在の同窓

会員数は一〇二一八名(亡くなられた方を除く)、このうち住所が登録され、会報「藤棚」をお送りしている方が七三二〇名で、住所判明率は七〇%を超えています。

五年ごとに発行される同窓会名簿は、来年度が発行年となっております。

最近では名簿の発行を取りやめる団体が増加しておりますが、同窓会が存在する限り名簿の維持管理は必須です。同窓会では、個人情報保護に細心の注意を払いつつ、常任幹事のみにより名簿を維持管理しています。名簿維持の負担軽減のため、住所等の変更は速やかにご連絡くださるようお願いいたします。

別稿で詳しくお示ししているように、名簿発行の準備として、名簿調査票をこの会報に同封いたします。調査票には同窓会費(二〇二二年・二〇二四年分)の振込用紙が

同封されております。是非同窓会費をお納めください。

同窓会費は、主に名簿の発行及びその維持管理、会報「藤棚」の発行等に使用されておりますが、五年後には附小は創立百五十周年を迎えることとなります。これを機にこれからの世界を作る子供たちを育む小学校への支援にも力を入れ、皆様からお預かりした同窓会費をより一層有意義に使用してまいります。

同窓会費を納入された方には名簿をお送りします。ただし名簿は不要とされる方もおられますので、調査票に名簿希望の有無を明確にご記入いただくことにしました。

従来は名簿改訂時に八十歳を超える卒業年のご高齢の方からは会費をいただくかず、名簿は無料でお送りしております。しかし、高齢会員の増加に伴い、無料配布が同窓会の会計を圧迫するようになってまいりました。

そこで、今後は会費免除の制度を取り止めることといたしました。ご高齢の皆様も、学校への応援を含め、同窓会

新型コロナウイルスの先へ

一九八八年(昭和六十三年)卒 二組 金子岳人

新型コロナウイルスの収束にはまだ時間がかかると思いますが、少しずつ実態が分かり始め、それぞれ考えて行動するようになってきたと思います。

ちくらつなぐホテルでは、厳しい環境下でも準備だけは進めてきましたが、過日の千倉にて、東京から学生の生徒たちを貸切でお迎えすることができました。昔見た光景が蘇るとともに、私たちが実現したかった一つの形がそこにありました。これからも持続的に地域と人をつなぐ場所であり続けたいと思います。



ちくらつなぐホテル <https://chikura.tsunaguhotel.jp/>

(株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ 代表取締役)

活動にご協力いただける方は、会費をお納めくださるようお願いいたします。

同窓会報「藤棚」は引き続き全会員に配布いたします。

同窓会と会員のつながりをより深めるため、同窓会のフェイスブックアカウントを設定

しました。「青山附属同窓会」で検索してみてください。まだテスト運用中ですが、今後より広く活用し、同窓生とのつながりを利用して、学校の先生方の教育活動のお手伝いができる体制を整えていきたいと思っております。

ルが催されたそうです(左に掲載写真を転載)。

二〇一六年三月に同窓会が主催した「創立二四〇周年記念祭」(於・児童館)には、恩師を含め、約二五〇名もの同窓生が集いました。どのような形であれ、同窓生が集まる場を提供することは、同窓会の重要な責務だと思っています。

次に同窓生の皆さんとお会いできるのは、創立一五〇周年の機会でしょうか。楽しみにしております。(斉藤)



フォークダンス・ソフトボールに興ずる

父はリユニクス、息子はエスぺ。

スポーツを通して学んだ小学校校生活

二〇〇五年(平成十七)卒 三組 花城 慶

まずはじめに、今回このような機会をいただいた斉藤様をはじめとする青山附属同窓会の皆様、誠にありがとうございます。

私事になりますが、昨年四月に父親が他界し、何かできることがないか考える中で、父親が設立したバスケットボールチーム『リユニクス』を思い出しました。

今回の執筆は、世田谷小学校の同級生が教員として働いていたこともあり、相談させていただいたことで実現するかたちとなりました。

同級生から聞いて驚きましたが、現在も附属世田谷小学校にバスケットボールチーム『リユニクス』が活動を続けているようで、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。

私の小学校生活は、二年生の時にFCエスペランサに入部してから、サッカー少年と

して毎日過ごしていました。

休み時間になると下校庭や上校庭で同級生とサッカーやキックベースをして遊び、土日はエスペランサで活動する日々でした。

特に、二〇〇二年日韓ワールドカップの開催は世間でもとても盛り上がりつつあった頃になります。日本代表が黄金カルテットと言われた時代で稲本選手の活躍は私達にとっても刺激になりました。

もともとサッカーが上手くなりたいと思っていましたが、当時のエスペランサは全国の強豪チームを招き、世田谷小学校で練習試合をすることが多かったのです。Jリーグの下部組織チームが世田谷小学校に来ることもよくあり、大量失点したことも今でも懐かしい思い出になります。

私自身、小学校卒業後、東京ヴェルディのジュニアユースで

サッカーをしていましたが、FCエスペランサでの経験のおかげでした。あの当時ご指導いただいた加藤監督や多くのお父さんコーチの指導があったことで上達できたと思います。

一方で私の父親は、学生時代はバスケットボールをしていたこともあり、サッカーとは無縁でした。息子がサッカーに夢中な時、父親の口癖は、「慶の学校にバスケットボールチームを作りたい」でした。

小学校三年生の頃、家で父親がパソコンを使い、チーム名やロゴを毎日考えている姿は今でも鮮明に覚えています。「慶、リユニクスって名前カッコよくない?山猫って意味なんだよ」。

リユニクス設立後は、土日になると息子は下校庭でサッカーをし、父親は体育館でバスケットボールを指導してい

ました。あのサッカーフイバーの中でも、父親はバスケットボールを附属世田谷小学校の生徒に教えたいと強く思っていました。

昨年、父親が亡くなった時、当時指導していた生徒からももらった手紙やリユニクスのチームロゴのシールは、自分の部屋に保管されていました。

あの時代から約二〇年経った今では、バスケットボールはBリーグの設立や、日本人選手がNBAで活躍するなど、世間でも注目されるスポーツだと実感しています。

今思うと、世田谷小学校にバスケットボールチームができて良かったと思います。小学校生活はスポーツを通して多くの経験ができ、たくさんの友達もできました。学んだことは大人になった今でも活かされています。

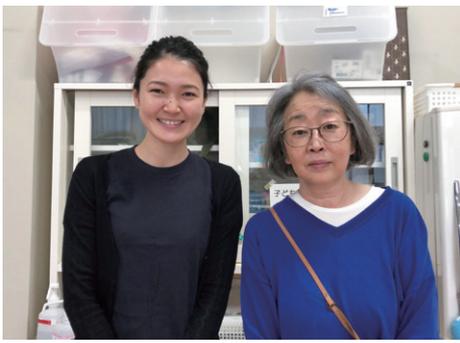
これからも私と父親が大変お世話になった『FCエスペランサ』と『リユニクス』の活動と、それらに関わる全ての方のスポーツを通じた発展を心から願います。



これまでの感染症対策と今後

二〇〇五年(平成十七)卒 一組

養護教諭 桑野(角田)桜



丸田文子先生と

世小を卒業して約十五年。現在、養護教諭として世小の子どもの健康をサポートしています。保健室には私が子どもの時からお世話になっている丸田文子先生も一緒です。子どもの時に先生だった方々と昔と変わらない校舎内で、現在は同じ教師、仲間として働くというのはなんとも不思議な気分です。卒業文集や卒業アルバムを先生方が教員室で見つけた時は恥ずかしくてたまらなくなりますが、「やっぱりうちの卒業生だよな。」な

んて言っていただけることがあると、私も世小らしさを持ち合わせているのだと嬉しくもなります。この感覚は卒業生の私だけかもしれませんが、先生方は私の小さな頃を知っている親戚のようだなとも思っています。先生方がよく卒業生の話をしているように、いつまでも卒業生の成長を想い続ける温かな環境であるからこそなのでしょう。

たった六年の小学校生活。されど自分らしさを創り上げてくれた貴重な六年間。きっと卒業生の皆様も、知らず知らずのうちに「世小らしさ」をお持ちなのだと思います。

さて、新型コロナウイルス感染症が国内で流行し始めてから、約一年半が経過しようとしています(原稿執筆時、令和三年六月)。未知のウイルスの脅威を感じながら、本校はできる対策を行ってきました。昨年度は二月末から約三カ月間にもなる長期の臨時休

校を経て、四分割登校から二分割登校、全員登校へと段階的に学校を再開してきました。さらに感染対策として、登校時の手洗い指導や動線が重ならないような工夫、休み時間の見守り業務、子どもが下校した後の校舎内の消毒、感染予防に関する指導など、今まで経験したことがない対応に終始追われました。

これらの対応は全て子どもたちの命を守るためではありますが、「三密になってはいけない」ということ自体が、学校現場においては大きなストレスになったように感じます。なぜなら学校というところは、子ども同士や先生方、保護者等が集まり、学習のみならず学校行事等における「他者

とのふれあい」を通して信頼関係や安心感を醸成していく、ある意味、人間関係が「濃密な」ことで成り立っている場であると考えるからです。その学校において、国が回避を求めている三密について「密にならない」と教師の口から言わなければいけないことへのやるせなさを感じました。

感染症予防対策を行いな

ながらも生活や学びの調和を図っていくことは、Withコロナの学校の課題であるとともに、コロナ後を含めた学校の課題でもあります。長期化が予想されるからこそ、学校におけるコロナ対策において、全体として有効に機能させる持続可能な対策に向けて、「徹底する」対策から「調和を図る」



今年度の健診は計画通り順調に実施することができホッとしています。健診でも感染症対策のために間隔を開けるなどしています。歯科校医の中尾一成先生も世小の卒業生です。

今現在行っている世小の感染症対策についてご紹介いたします。

子どもたちは健康チェックカードを用いた毎日の検温、登校直後や活動前後の手洗い、マスク着用、給食前に机のアルコール消毒と手洗い、マス

クを外す食事中は同一方向を向き喋らない等、感染症予防行動を身につけて生活しています。

校内の窓を開けての常時換気、学級教室への空気清浄機や二酸化炭素濃度検出器の設置、手洗い場やトイレの自動

水栓化とハンドペーパーの常備等、校内環境の整備も行ってきました。ご家庭でも、毎朝お子さんの健康状態を確認していただき健康チェックカード記入、また、体調が良くない時は登校を控えていただくなどご協力いただいております。

対策へのシフトが必要なのかもしれません。そして一人一人が自他の健康を守りながら成長していけるよう、教職員やご家庭をはじめ様々な方と力を合わせながら今後も養護教諭として子どもをサポートしていきたいと思えます

ご縁に支えられて

元教諭 内田雄三



中央が内田です

一九八七年四月より二十四年間(含、小金井小勤務一年)お世話になり、現在白鷗大学教育学部(栃木県小山市)で中高保健体育科および小学校の教員養成に携わっております。編集ご担当よりテーマフリーで、とのお話でしたので、「縁」についてエピソードを紹介しながら書き進めることとします。なお登場する卒業生全員から、個人名を出す許可をいただいています。

二年前の春に旧友から突然連絡がありました。順天堂大学医学部教授で附属練馬病院小児科長の大友義之先生ですが、「うちの小児科に雄三さんの教え子、前川君が入ったよ!」。前川君と同期の玉村君と卒業後も連絡し合い、同大へ進学したこと、前川君他世小卒業生を大学でよく見かけることなどを聞いていました。大友さんには何かと教え子がお世話になります、など話をしてきたら「ぜひ四人で会おうよ」となり、それが実現しました。世小時代のこと、医師としての思いなど四人で話す時間は楽しく、また彼らの成長は頼もしいばかり。もつとも上司と担任に囲まれた二人は楽しかったかどうか。緊張と冷や汗の連続だったかもしれない。ちなみに大友さんは、学生時代は山岳部に所属し、燕岳の診療所に常駐していたそう、世小の燕岳登山を覚え

ていました。燕岳世代の会員諸氏には懐かしい話ではないでしょうか。

次のエピソードは大学講義。世小の先輩、小林宏己先生から早稲田大学「初等体育科教育法」講義担当を勧められ十二年経ちますが、今回は十一年前に卒業した西川真由さんが主人公。二年前の六月に西川さんと会った時に私がこのことを話すと、早大生の彼女が「他学部ですが行ってもいいですか?」。それから三か月後、後期開始当日の午前中に「今日4限、授業に行きますね。」と連絡が入り、本当に教室にやって来ました。さらに彼女はそのまま受講、「次も来ますね」の言葉通りとうとう最終回まで参加してくれました。グループワークでの協働的な学びの姿と笑顔で広げる人間関係、その場が彼女の日常のようにさえ感じました。しなやかな行動力と絶妙な仲間づくりへの感動を手紙にしたため、本人とご両親宛に感謝の思いを伝えました。

今後二度とないであろう出来事でした。

最後のエピソードは最初の

卒業生。不惑を迎える彼らは若い頃から夏に青山荘に集まり、私も家族とよく参加しました。その中心だった佐藤元氣君は現在動物病院の院長。一年半前に愛犬が体調を崩し近所の動物病院に通院したのですが、その診察に疑問がありました。佐藤君に現状を相談したところ検査結果を画像で送るようにとのこと、その結果を見て状況を丁寧に説明してくれるとともに適切な助言をもらいました。愛犬は亡くなりましたが、佐藤君のお蔭で落ち着いて対応でき、家族皆で「元氣君に聞いてよかったね」と温かい気持ちになりました。

同期の田原智之君です。若くして料理の道を志し、修業を重ねた今ではチーフシェフとして腕を振るう田原君。次々と素敵な料理をふるまってくれました。ほどなくやはり同期の山本剛久君が合流。

山本君は公立小教員から学大附属大泉小へ異動し、力をつけて再び東京都に戻りました。彼が語る教育への思いや子どもへの未来など、しっかりとやっていると感じ、また山本君の熱さに臆することなく絡んでいく二人にも確かな成長を感じたひと時でした。

限られた紙面で語りつくせない素晴らしい教え子たちがまだまだいます。私の教員人生は世小が作ってくれました。先輩方、保護者の皆様も含め多くの縁に支えられた教員生活、これからも卒業生から「先生」と呼ばれるに値する人間であるよう、自分を磨いていきたいと思っています。

(白鷗大学教授)

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	12,420,685	2020藤棚印刷費	380,600
		名簿印刷費	0
収入	1,105,000	回線使用料	71,500
銀行利息	207	データ管理費	182,820
		事務手数料	117,450
		2020藤棚・名簿発送費	810,477
		通信費	16,444
		事務用品費	13,160
		慶弔費(弔事・卒業祝)	0
		交際費	7,149
		会議費	748
2020年度収入合計	1,105,207	交通費	0
		振込手数料	3,668
		会費返金 1名分	5,000
		本年度支出計	1,609,016
		次年度へ繰越	11,916,876
合計	13,525,892	合計	13,525,892

1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額
前年度より繰り越し	3,304,413
銀行利息	276
証明書手数料	220
合計	3,304,469

3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行 合計	3,304,469
経常会計分	
三井住友銀行通知預金	1,500,000
三井住友銀行定期預金	3,023,987
三井住友銀行普通預金	2,804,453
ゆうちょ銀行総合口座	3,302,243
ゆうちょ銀行振替口座	1,267,305
現金	18,888
合計	11,916,876
基金+経常会計合計	15,221,345

会計監査承認 会計監事 一力健一郎 松本洋典

懇親会延期のお知らせ

今年度は、三年に一度の懇親会の開催年にあたりますが、コロナ禍をふまえ、開催は延期させていただきます。
よろしくご理解いただきたくお願い申し上げます。

祝、瑞宝双光章受章

岡田和雄先生(一九六一～八三年在職)が、令和二年十一月に瑞宝双光章を受章されました。おめでとうございます。

◆本年度の同窓会役員

- 会長 長庭山正一郎(昭和三十三年)
- 幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
- 会計監事 一力健一郎(〃五〇年)
- 常任幹事 松本洋典(平成八年)
- 小野聖穂(昭和二十九年)
- 幣原 廣(〃三七年)
- 岡市典子(〃五三年)
- 小林哲子(〃五四年)
- 斉藤研一(〃五四年)
- 野口尚志(〃六三年)
- 山本剛久(平成六年)
- 瓶子可南子(〃八年)
- 日野真毅(〃二五年)

訃報

亀岬嘉子先生(一九四六～七五年在職)が、二〇二〇年九月に逝去されました(享年九十五歳)。
元校長・本山忠男先生(一九八八～九一年在職)が、二〇二〇年九月に逝去されました(享年九十三歳)。
ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

◆同窓会再建時の迫水久常会長は、終戦時の内閣書記官長で、終戦詔書(いわゆる玉音放送)の起草者のお一人でした。
◆再建第一回の同窓会総会で催されたフォークダンス。「藤棚」臨時号によれば、「若い学生徒諸君は、また自分達の足跡が生々しく残っているような運動場で、フォークダンスや球技に楽しんでおり」とあり、上校庭で踊っているのは、若い同窓生のようです。
◆その上校庭が、全面、きれいな緑色の人工芝の校庭に生まれ変わりました。(斉藤)

